

第6節 参加と連携

市民、事業者、観光客等及び市が環境の保全に関して担うべき役割を知り、それぞれの立場に応じた公平な役割分担の下で、自主的で積極的な行動をとることにより、すべての主体が環境保全活動に参加する社会の実現を目指します。

1 奈良市環境教育基本方針

環境問題が深刻・多様化する中で、本市の豊かな歴史的文化遺産や自然環境がもたらしている“奈良らしさ”を将来の世代にまで引き継ぎ、環境負荷の少ない持続可能な社会を実現するためには、社会経済システムや私たち一人ひとりのライフスタイルを根本から見直す必要があります。そのためには、環境問題に関心を持ち、自ら考え、具体的な行動を実践する人を育てる環境教育が重要となることから、平成 21 年 3 月に「奈良市環境教育基本方針」を策定しました。

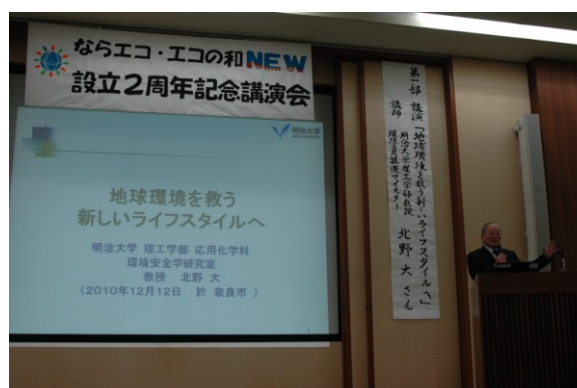
本方針では、歴史・文化、自然(生物)、水、大気、廃棄物、食、エネルギー、地球環境など幅広いテーマを対象として、市民・家庭、地域、学校、市民活動団体、事業者、観光客等、行政などそれぞれの主体が自発的に環境教育を推進するための基本的な方向性や取り組みを示しています。



2 奈良市地球温暖化対策地域協議会（通称：ならエコ・エコの和、NEW）

地球温暖化対策地域協議会は、地球温暖化対策の推進に関する法律第 26 条第 1 項の規定に基づく組織で、平成 20 年 10 月 26 日、市民（個人・団体）、NPO、事業者、学識経験者、行政などが対等な立場で和をもって協議を行い、パートナーシップにより地球温暖化対策等の活動を推進し、環境（エコロジー）も経済（エコノミー）も持続可能な社会をめざして、「奈良市地球温暖化対策地域協議会（通称：ならエコ・エコの和、NEW）」が設立されました。当協議会では、全体協議の場である“エコエコサロン”が開設され、また省エネ・創エネの推進、3Rの推進、公共交通機関の利用促進、環境教育の推進などのプロジェクトが進められています。

平成 22 年 12 月 12 日には、設立 2 周年記念講演会「地球環境を救う新しいライフスタイルへ～今だからこそ、みんなで地球環境を考えよう～」と題して、明治大学理工学部教授で環境省 3R 推進マイスターの北野大（きたのまさる）さんをお迎えし、記念講演会及び奈良市長との対談を開催し、市民や会員など 230 名を超える参加者がありました。



3 アダプトプログラム推進事業

アダプトプログラムとは、市民と行政が協働で進めるまち美化活動のことであり、日本には平成 10 年（1998 年）に初めて導入され、以来、全国的にその取組が広がってきています。

奈良市では、平成 20 年 6 月にアダプトプログラム推進事業（「さわやかクリーン奈良」）を導入し、市民にとって身近な道路や河川などの美化を進めるとともに、その活動を通して地域コミュニティの再生を図るため、美化ボランティア団体を募り、その活動を支援しています。

活動団体は、空き缶・吸い殻等の散乱ごみの収集や除草、花の植栽や花壇の手入れ、公共施設の損傷・不法投棄等の情報の提供などの活動を行い、市はその支援として、清掃用具の支給、賠償補償保険の適用、ごみの回収、サインボード（看板）の設置を行っています。

参加団体数は、平成 23 年 3 月 31 日現在で 44 団体、889 人となっています。

参加団体種別	参加数
自治会・自治連合会等	19 団体
婦人会・万年青年クラブ等	8 団体
企業	4 団体
N P O	2 団体
その他	11 団体
計	44 団体

4 グリーンサポート制度（公園管理報奨金交付制度）

平成 20 年度より、市が管理する都市公園並びに児童遊園及びちびっこ広場を対象として、地元自治会等の団体組織で公園の美化、維持管理及び公園施設の点検を行ない、公園を快適かつ安全に利用することを目的とする制度です。

年度	実施団体数	従事者数	実施公園数
平成 20 年度	39	620	39
平成 21 年度	53	1,061	64
平成 22 年度	66	1,411	82

5 月ヶ瀬、都祁地域と都市部との連携

月ヶ瀬、都祁地域と都市部とのふれあいの場として、月ヶ瀬では地域団体（月ヶ瀬温泉ふれあい市場）が富雄地区や赤膚地区などで朝市を行っており、都祁では都祁まちづくり協議会が農業体験交流事業（田植え、稲刈り、収穫祭）を行っています。